

# 提案発表

第3学年

思いや意図をもって  
表現する子供の育成を目指して

板野郡北島北小学校 人見 稔子

北島北小学校



校内音楽会(全校合唱)



授業での歌唱の様子

演奏表現の技能に課題

作詞・作曲者の思いや意図を大切にし、かつ自分の思いや意図を演奏に生かせる音楽学習を目指したい。

## 研究内容

- (1) 楽しく音楽活動に取り組むための工夫  
 (2) 児童の思いや意図を表現に生かすための  
 授業実践

## 研究の実際

- (1) 学習活動における表現への意識づけの工夫  
 (2) 学習活動の工夫

## (1) 学習活動における表現への意識付けの工夫

- ① リコーダーを使って、曲想にあったタンギングの仕方  
 ○ 北村 俊彦 作曲 「笛星人」から

曲名	感想	タンギング
ちょっとまってね	ゆっくりで優しい曲。 とてもいいねいに吹いている。 すごく清らかに演奏している。	レガートで なめらかに
しっばれー!	速い曲でリズムがよかった。 運動会の音楽みたいで、急いでいる みたい。 頑張ってるみたい。	歯切れ良く 軽やかに
シロロロン	「ちょっとまってね」に似ていて、ゆっ くりで清らかな曲。 やさしくしっとりしている。 ちょっぴり悲しい気がする。 さわやかである。	レガートで なめらかに

## (1) 学習活動における表現への意識付けの工夫

- ② 歌唱において曲想にあった歌い方

○ 歌唱曲「友だち」「春の小川」「海風きって」

曲名	支援	変容
友だち	遊具遊びなどをはじめ、友達と 楽しく遊んでいる様子を思い出 しながら歌う。	にこにこした表情へ 生き生きと力強く歌え るようになった。
春の小川	さらさら流れる小川の様子、花 がかわいらしく咲き、生き物が楽 しく遊んでいる様子を想像する。	優しくなめらかに歌え るようになった。
海風きって	前半と後半の曲想が違っている。 (前半) 弾むように生き生きと (後半) やさしく清らかに	歌声にメリハリがあ ついで、表情豊かに歌える ようになった。

歌を歌う時は、必ず歌詞の内容から様子を頭に  
思い浮かべながら、曲想を意識させる働きかけ

## (1) 学習活動における表現への意識付けの工夫

- ③ ドレミ体操で音程感覚や音楽の流れを感じ取る

○ 「1年生の音楽の教科書」(平成23年教育芸術社出版)



コロナ禍で歌を十分に歌うことができないため、  
曲を身体を使って表現することは有効な活動

**(2) 学習活動の工夫**

①鑑賞・器楽教材「笛星人」の実践

リズム良く  
軽やかに  
**しっぱれー**

やさしく  
なめらかに  
ていねいに  
**ちょっと  
まってね**

リズム良く  
軽やかに  
**しっぱれー**

↓

曲想に応じてタンギングの仕方を変えることで、曲に表情がついてきた。嬉しそうにリコーダーの演奏に取り組む姿。



**(2) 学習活動の工夫**

②鑑賞教材「メヌエット」の実践

滑らかで  
優雅な感じ  
**ア**

短い音が軽  
やかに弾む  
**イ**

滑らかで  
優雅な感じ  
**ア**

手を動かしながら聴く

↓

旋律の動きを手で表現することで曲想を捉えやすく、子供にとって分かりやすい鑑賞活動になった。



**(2) 学習活動の工夫**


③歌唱教材「とどけよう このゆめを」の活用

↓

前半(リズムカル)・後半(流れる感じ)という構成

曲想の違いを感じ取りやすい

音の上がり下がり  
歌詞  
ピアノ伴奏




	感じたこと	気づいたこと
ア	<p>明るいかんじ</p> <p>速いかんじ</p> <p>楽しいかんじ</p> <p>元気なかんじ</p>	<p>音の上がり下がりのはげしい</p> <p>リズムが速い (※リズムがたくさん入っている意味)</p> <p>「かがやいて」・・・本当にかがやいているかんじがする</p>
イ	<p>ゆったりしたかんじ</p> <p>歌とリコーダーで楽しいかんじ</p>	<p>音の上がり下がり小さい</p> <p>ゆったりしたリズム</p> <p>リコーダーの音色がする</p> <p>「よびかける」・・・よびかけてくるかんじ</p>

「とどけよう このゆめを」

(ア)  
明るく 楽しく  
生き生きと


(イ)  
ゆったりと  
なめらかに

作詞・作曲者の思い

**キラキラ** **あざやかに** **かがやいて**

↓

曲を何度も聴いたり楽譜をじっくり見たりしながら自分の思いや意図を考えさせた。







## 成果

- 子供たちは、歌詞の内容から様子を頭に思い浮かべたり、曲の特徴を捉えたりして歌うようになってきた。
- 子供たちの表現のよさを価値付けたり、子供たちの表現について適切にアドバイスをしたりするなど、教師が声かけや発問など工夫をすることにより、表現が生き生きとしてきた。
- 子供たちは曲想を感じ取ったり、作詞・作曲者の思いや意図に気が付いたりして、表現することが楽しみになってきた。

## 課題

- 思いや意図をもって表現するための土台となる気付きや感じたことを関連させ、どのように歌って表現したいかという思いを子供に持たせつつも、歌って表現することが厳しい状況の中で、子供たちが歌唱に注ぐ思いを継続した実践を行っていくことは難しかった。
- 日々の授業の中で、自分の思いとその表現の仕方について常に問いかけ、子供たちの表現方法を引き出す工夫が大切である。
- 常に表情豊かに、そして子供たちとコミュニケーションを図りながら、学習内容を深められるよう研究を続けていきたい。



ご清聴ありがとうございました。